

2009年3月期 決算概要（連結）

1. 業績の概況 当連結会計年度（自 2008年4月1日 至 2009年3月31日）（単位：億円）

	2008年度 (第4期)	2007年度 (第3期)	2009年度 (第5期) 計 画 ※4
営業収益	7,917	7,417	6,459
高速道路事業	7,458	6,995	5,863
(料金収入)	5,576	6,043	4,794
(道路資産完成高等)	※2 1,881	※3 952	1,069
休憩所事業	256	252	341
その他(関連)事業	202	168	256
営業費用	7,799	7,237	6,385
高速道路事業	7,397	6,895	5,850
休憩所事業	193	167	273
その他(関連)事業	208	174	262
営業利益	117	179	74
高速道路事業	60	100	13
休憩所事業	63	84	68
その他(関連)事業	△5	△5	△6
経常利益	138	189	62
当期純利益	80	109	37

※1 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※2 2008年度の道路資産完成高等には、料金社会実験等に伴う国からの負担金（126億円）を含みます。

※3 2007年度の道路資産完成高等には、料金社会実験等に伴う国からの負担金（37億円）を含みます。

※4 2009年度計画は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要素により、上記計画数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

(注) 事業内容の種類、性質等の類似性、損益集計区分及び関連資産に照らし、以下のように事業区分を行っております。

事業		業務内容
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
休憩所事業		高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
その他(関連)事業		受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、カードサービス事業等

2 トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

東海北陸自動車道（飛騨清見～白川郷 24.9km） 2008年7月5日開通
紀勢自動車道（大宮大台～紀勢大内山 10.4km） 2009年2月7日開通
スマートIC（北陸道 南条SA 安宅PA 流杉PA、東海北陸道 ひるがの高原SA、
東海環状道 鞍ヶ池PA） 2009年4月1日営業開始
利便増進事業による高速道路料金の引き下げ 2008年10月14日から

(通期業績)

高速道路事業の営業利益は60億円を計上。
高速道路事業営業利益は、景気後退の影響で料金収入は計画を下回ったものの、節減等により
管理費用も抑制し、日本高速道路保有・債務返済機構への道路資産賃借料を差し引いた後、
60億円を計上することができました。

(2) 休憩所事業

(実施した施策)

コンビニエンスストア : 中央自動車道辰野PA（下り） 7月8日オープンほか15箇所
セルフカフェショップ : 名神高速道路養老SA（下り） 4月18日オープンほか7箇所
デザートショップ : 中央自動車道石川PA（上り）12月19日オープンほか1箇所
ファーストフード : 中央自動車道屏風山PA（上り）7月16日オープンほか1箇所
地元密着型店舗 : 中央自動車道神坂PA（上り） 7月18日オープンほか2箇所

(通期業績)

道路休憩所事業の営業利益は63億円を計上
道路休憩所営業利益は、一部店舗の直営化等により営業収益は増加したものの、販売促進キャンペーンなど事業拡大に向けた費用により休憩所事業営業費用は増加し、営業利益では対前年度を21億円下回る63億円を計上することとなりました。

(3) その他

(通期業績)

その他（関連）事業の営業損益は△5億円（損失）を計上
その他（関連）営業利益は、カードサービス会員が飛躍的に伸びるなど、着実な事業成果をあげましたが、事業拡大に向けた費用が上回った結果などにより、営業損益では対前年度と同額の△5億円（損失）を計上することとなりました。

以上